

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	幼児教育推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/未来を担う子どもたちの育成	担当課	子ども課
施策①	健やかな成長を図る幼児教育の充実	電話番号	22-5121
施策②	幼児教育施設における教育内容の充実	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	新規
4つの柱	教育の充実	補助・単独	単独
事業期間	令和6年度～令和8年度		
事業の概要			
子どもの生きる力の基礎となる資質・能力を育成するため、施設種や組織の枠組みを超えた一体的な幼児教育推進体制の構築を築きながら、就学前教育の質の高い教育の推進を図ることを目的とし、釜石市幼児教育アドバイザーの育成や幼児教育施設職員合同研修会を開催する。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	核家族世帯や女性の就業率の向上により、教育・保育施設へ入所する児童が大半であり、家庭より教育・保育施設で過ごす時間が長い児童が多い。また、保護者からのアンケート結果では「幼児教育施設で充実を望むこと」の1位が「教育・保育内容の充実」、2位が「生活週間の定着」、3位が「教職員の資質・専門性の向上」「幼児教育施設と小学校の連携」であった。
目的	公立・私立の教育・保育施設、どこの園に入所しても同じ質の幼児教育を受けることができるように、教育・保育施設職員の質の向上を目指す。また、幼児期から初等教育への円滑な接続を図るため、「架け橋期のカリキュラム」を作成することで小学校との連携の取組を行う。幼児教育の質が向上することにより、全ての子どものウェルビーイングに繋げる。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育による園内研修の実施</li> <li>・幼児教育施設職員合同研修会の開催</li> <li>・幼児教育アドバイザーの育成及び活用</li> </ul>		
事業費		
R 6	R 7	R 8
151 千円	151 千円	151 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	適切	適切
評価結果			
県事業のモデル地区から外れる令和6年度以降も市の独自の取組による継続実施が求められる。今後も、ハードとソフトの両面から子育て環境の充実を図るとともに、教育委員会等との横の連携を図りながら事業を推進すること。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	英検受検料補助事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/未来を担う子どもたちの育成	担当課	学校教育課
施策①	生きる力を育む学校教育の充実	電話番号	22-8833
施策②	確かな学力の育成	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	新規
4つの柱	教育の充実	補助・単独	単独
事業期間	令和6年度～令和8年度		
事業の概要			
英語学習に対する意欲と学力の向上を図るため、文部科学省が後援している英検の3級以上を受検する生徒に対して受検料を補助するもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
英検は学校で受検できるため生徒にとって利用しやすい検定となっているが、英検の受検料は年々高騰している。 (3級：14年度 2,800円→24年度 5,000円)
目的
家庭の経済事情に関わらず、英検を希望しているすべての生徒が受検できる環境をつくり、英語学習に対する意欲を高める。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
文部科学省後援の英検受検料を補助する。		
事業費		
R 6	R 7	R 8
1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	見直し余地あり	適切
評価結果			
新規事業であることから、効果検証を行いながら実施されたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	放課後等学習支援員配置事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/未来を担う子どもたちの育成	担当課	学校教育課
施策①	生きる力を育む学校教育の充実	電話番号	22-8833
施策②	確かな学力の育成	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	新規
4つの柱	教育の充実	補助・単独	単独
事業期間	令和6年度～令和8年度		
事業の概要			
主に中学3年生の希望者を対象に、放課後等に学習会を開催し、学力の定着と学習意欲の向上を図ろうとするもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
諸調査の結果から各教科正答率は下降傾向にあり、「思考・判断・表現」が大きな課題となっている。授業の様子からは、分からないとあきらめてしまい、最後まで課題と向き合うことができず、自分の考えに自信がないと活動が進められなかったり、ペアやグループでの活動が考えを伝えるだけで終わってしまい、児童生徒同士で考えを深めたり広げたりすることができない状況がみられる。
目的
自分に自信をもち、可能性をひろげ、将来活躍できる人材を育成するとともに、児童生徒の学力の向上を図る。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
市内の団体に委託し実施する。 （1）市内中学校5校において、週1回16:00～17:30の時間帯で放課後学習教室を開催する。 （2）長期休暇等に小学校高学年を対象としたに学習会を開催する。		
事業費		
R 6	R 7	R 8
3,692 千円	3,692 千円	3,692 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	見直し余地あり	適切
評価結果			
新規事業であることから、効果検証を行いながら実施されたい。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	かまいしコミュニティスクール推進事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/未来を担う子どもたちの育成	担当課	学校教育課
施策①	生きる力を育む学校教育の充実	電話番号	22-8833
施策②	豊かな心の育成	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	単独
事業期間	平成24年度～令和8年度		
事業の概要			
市内小中学校において、地域に元気を与えるような活動、当市の風土・伝統及び有形無形の財産を活用して郷土理解を深め郷土への誇りと愛着を育む活動、地域と協働により取り組む活動等に要する経費に対し、交付金を交付するもの。また、学校運営に地域の声を積極的に生かし、「地域とともにある学校」及び「学校を核とした地域づくり」を進めるため、学校運営協議会の設置及び運営を推進するもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
地域のつながりが希薄となっており、学校・家庭・地域が目標を共有しながら活動することが少なくなっている。釜石らしさを生かした学びや郷土理解を深める機会が少なくなっている。
目的
地域に元気を与えるような取り組み、釜石の風土、伝統及び有形無形の財産を活用して郷土理解を深め、郷土への誇りと愛着を育む活動、地域と協働により取り組む活動等を通し、釜石に愛着を持つ人材を育成する。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
(1) 市内小中学校が行う事業に対して交付金を交付する。 ・地域の風土、伝統及び有形無形の財産を活用した事業、ものづくりや鉄の学習に関する事業 ・防災意識を高めるための事業、地域清掃活動等 (2) 学校運営協議会の運営		
事業費		
R 6	R 7	R 8
2,800 千円	2,100 千円	2,100 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
児童・生徒の地元地域との交流や郷土理解を深めるための貴重な取組であることから継続実施と判断した。なお、コミュニティスクール推進事業交付金については、各学校によって使用目的や使用方法等に差が生じているため、交付金のあり方及び使用方法等について適正かどうかを確認する必要がある。			

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	高校生のキャリア構築支援事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/未来を担う子どもたちの育成	担当課	総合政策課
施策①	生きる力を育む学校教育の充実	電話番号	0193-27-8463
施策②	小学生から高等学校までの系統的なキャリア教育の推進	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
4つの柱	教育の充実	補助・単独	単独
事業期間	平成27年度～令和8年度		
事業の概要			
市内高校生が自己探求及び社会の課題解決に向けて主体的に行動できるよう、①志を持って活躍する社会人と高校生の対話の場を設け、職業観の醸成を行う「釜石コンパス」を実施する他、②地域おこし協力隊制度を活用した「教育魅力化コーディネーター」を配置し、高校生が地域と関わり、学び合うためのコーディネートを行うもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
高校生は、自らの進路や将来について「やりたいことが分からない、見つからない」「自分で決断する自信が無い」と感じており、また地域や社会のことを学びたいというニーズがあることから、社会課題の解決と高等教育の接続が図られる探求型学習が求められている。 また、進路や将来を考える上で、その相談者が家族や先生と身近な範囲での情報源に依存しており、多様な可能性や考える機会が乏しい。
目的
地域内外に企業やNPO、大学などと連携した、自身のキャリア意識や郷土愛、起業家精神を醸成する教育プログラムの参加を通して、高校生が主体性をもって自己探求および社会課題解決に向けて行動することができる人材を育成する。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
県立釜石高校学校、県立釜石商工高校における教育の魅力化に取り組むため、地域おこし協力隊を教育魅力化コーディネーターとして任用、高校に派遣し、地域との接続を促す。 社会人との対話を通して、高校卒業後の進路選択や多様な生き方を学ぶ機会として「釜石コンパス」を開催。		
事業費		
R 6	R 7	R 8
15,900 千円	14,073 千円	14,073 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
高校生が地域内外で働く大人との対話を通して、キャリア教育や起業家精神を醸成することができ、自ら考え、行動する主体性を育むことができるなど、他の地域にはない学びを提供する場となっている。高校生へのアプローチは継続しつつ、希薄となっている卒業生へのアプローチも併せて行い、継続して若年層との接点を持つよう、工夫されたい。 「教育魅力化コーディネーター」が行う業務は必要性や有効性を踏まえたうえで精査することが必要である。			